

# 東京都の社会教育は サークルのために何をすべきか

東京都府中青年の家 西村美東士

みなさんのサークルは社会教育行政に恵まれていますか。例公とする場所はちゃんとありますか。社会教育施設では青年はいきいきとしているのでしょうか。現在、区市町村の社会教育行政はサークルを初めとするさまざまな活動をしている青年たちにとって大きな安心事となっています。それは青年の自主的活動を援助すべき最も直接的な場が区市町村の社会教育施設なのだからごく当り前の事でしょう。

それに対して東京都が都政の一環として行なう社会教育はちょっとニュアンスが違います。地域の社会教育はあくまでも、その区市町村のレポートリーであり、都が上から何やかんやおせっかいをすべきではありません。都の仕事としては主に、①区市町村の社会教育行政の援助と、②広域的活動の援助及び広域的施設サービスの二つがあげられます。

①は、例えば社会教育行政民主化の手だてを試案したり、それに役立つ資料を作成して配布したりすることなどがあげられます。

②の意味はおわかりですか。「広域的活動」……、そう。例えばこの「東京青年交流集会」は、区市町村のレベルをこえて、青年が、サークルが、手をむすびあおうという活動であり、「広域的活動」といえます。残念ながら、都の社会教育行政として、これを援助する方向はまだ出ていませんが…。

次に現在、都が行なっている広域的施設は青年の家の家が主なものです。これは区市町村の社会教育施設で青年が宿泊できるものはごくわずかなので、都がそれをたてて、都内のどここの青年グループでも利用でき

るようにしたものです。そこでは青年が宿泊をともにしながら、グループ活動を楽しむことができます。

僕はその一つ、府中青年の家の職員です。できるだけ多くの青年ができるだけ充実した自主活動を行なえるよう、毎日、電話受付、リーダーとの事前打合せ、オリエンテーション、設備利用の守助けなどをしています。これらは、事務的・管理的な側面も持っていますが、それでも青年の活動を援助する大切な仕事だと思っています。

しかし、ここで僕がいつも悩んでいる問題があるので、皆さんにぶつけてみたいと思います。それは部の社会教育施設及び職員と青年とのつながりの問題です。青年の家を考えてみましょう。確かに青年の家は、毎日数十人、あるいは百数十人の青年を迎えています。しかしその青年たちは、一泊か二泊をそこですごすと地域に戻っていきます。そこでまた、いきいきとした活動を始めるのでしょ。当日、青年の家職員とたとえ、二・三、言葉をかわしたとしても、それは青年の家が青年とちゃんとつながりをもったということではありません。東京都の他の社会教育行政も、同様に、いやそれ以上につながりは弱いといえます。なにせ、住民と全然接することのないところで働く社会教育職員もいるのですから。『広域的な援助と施設』、それは今、とみに青年が必要としているものではあるけれども、どうしても青年とのむすびつきは浅くてもろいものになっています。

僕はこれは大きなネックだと思っています。なにせなら、たとえ職員が、初め、青年の立場に立ってやってゆこうと、情熱を真赤に燃やしても、相手の青年とちゃんとつながりをもっていかざらたら、それを燃やし続けるのはひどくむづかしいからです。燃えつきて腐ってしまうかもしれません。「そんなオーバーな」と思う人もいるでしょう。だけどあなただけの「片思い」を思い出してください。思う相手と会うこ

とも、話をするこゝもできないとしたら、その片想いはいつか消えて「思い出」になってしまいます。あるいは、女性ざらい、男性ざらいになるかもしれません。もしかしたらあなたは、青年とつながりを持つとうしない社会教育職員の中で、青年に敬意ばかり持っている人を知っているかもしれません。それです。

むすびつきの必要な理由はまだあります。そもそもつながりのないところでどうして社会教育が成り立つでしょうか。いつも公って話ができる。その積み重ねの中で、職員も、青年個人やグループについてよくわかり、すばらしい援助ができるようになるのではないのでしょうか。初めて公った青年に説教や訓練をすることは、社会教育の姿ではありません。

これらのことから、都としての社会教育行政は非常に難かしい向題（青年とのむすびつきがない）をかかえているといえます。いったい都の社会教育行政が広域の青年とつながりをもつことは可能なのでしょうか。

しかし、ここに東京青年交差集会所が用かれています。都の社会教育行政は、施設、職員、財政など、諸側面から援助すべきだと思います。そこには青年とのむすびつきの可能性があります。現に、都立水元青年の家では、五区連協が例公を持ち、職員が親身になって援助してきました。ミサ連も狭山青年の家の職員が援助してきました。そしてその可能性は、何もサークル連協だけにとどまりません。東京都の青年の家において、サークル交流会、リーダー研修会など、いろいろの試みが見られます。

このように、都の社会教育行政が、青年としっかりむすびつき、青年の要求に真に根づいた行政をなるべく努めようと思っています。しかし、本来、社会教育行政のゆくえを決めるのは住民です。青年教育

ゆきえを決めるのは青年自身です。青年の力、区市町村社会教育行政のみならず、都の社会教育行政に対しても、青年としっかりむすぶつき青年の立場に立つ社会教育を要求し、またそのための道すじを示すことが大切でしょう。

(おわり)

